



糖尿病と膵臓

糖尿病の人では他の人に比べ膵臓がんが多いことが知られています。日本膵臓学会によると、糖尿病患者が膵臓がんを発症するリスクは、糖尿病でない人に比べ**約2倍**高いと言われています。

糖尿病をもっている人が突然、血糖値コントロールが不安定になったり、それまで糖尿病ではなかった方がはじめて診断されたりしたときには注意が必要です。背後に「膵臓がん」が隠れているケースが、予想以上に多いという研究が発表されています。



world diabetes day
14 November



「膵臓がん」の早期発見・治療のために

「生化学的検査」

血液検査で膵臓の酵素や**腫瘍マーカー値**、ビリルビン値の動きをみることにより膵臓機能の異常、膵臓がんを発見できることがあります。

また、膵臓がんにより膵管がつまると**アミラーゼ**、**リパーゼ**、**エラスターゼ**などの膵臓の酵素が血液中に出てきます。そのため、血液検査でこれらの酵素が高値を示したときは、膵臓の病気の疑いがあります。また、**ALP**、**γ-GTP**などの胆道系酵素の上昇も起こるので、このような結果が出たときは、胆道系疾患だけでなく膵頭部の異常も疑う必要があります。

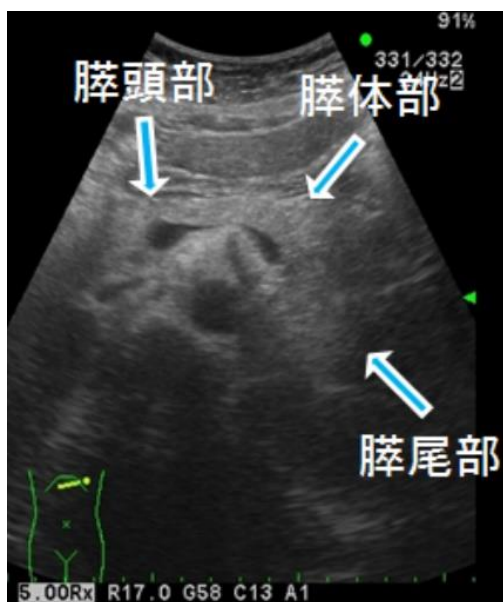


「腹部超音波検査」

腹部にゼリーを塗って体表から生体内に超音波パルスを入射し、体内の組織から反射してくる超音波を感知し、その強弱差を画像にする検査方法です。

膵臓がんを発症すると、膵体部や膵尾部の**膵管の拡張**が起こりやすいです。簡便で患者さんの身体に負担が少ないというメリットがあります。デメリットとして、身体の構造上、腸管ガスが重なり合いやすく、膵臓全体を見ることができないことがあります。

正常な膵臓



膵頭部がん



膵頭部に膵実質より**やや低エコーの、約4cm大の腫瘍**が認められます。腫瘍は不整形で境界は一部不明瞭となり、周辺組織への浸潤が疑われます。腫瘍の尾側膵管は径8mmで、拡張が著明です。

腹部症状のある方、**脂肪肝**が気になる方、
健康診断で**肝機能**や**腎機能の異常**を指摘された方は
一度、腹部超音波検査を受けていただくことをお勧めします。
※腹部超音波検査は最低でも6時間**絶食後の検査**となります。